

平成29年度 鳥栖市立田代小学校 学校評価結果

3 目標・評価					
①教師の指導力を高め、個に応じたきめ細かな指導を充実させ学力向上を図る。					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	達成度	成果と課題
教育活動	●学力向上	・基礎学力の定着 ・校内研究の推進 ・読書週間の定着	・12月の県調査で全学年県平均を上回る。 ・学習のつけ「チャイム着席100%」「呼ばれたら返事をする95%」をめざす。 ・家庭学習の量や質を向上させ、学年目標(1～3年30分程度・4～6年学年×10分)を90%以上クリアできるようにする。 ・「授業が分かりやすい」「授業が楽しい」と思う児童の割合、95%以上をめざす。 ・年間貸出数100冊以上の児童が80%以上をめざす。	B	・12月調査では5年生は全教科で県平均を上回った。しかし、4年生は理科を除く3教科で、6年生は国語を除く3教科で県平均を下回った。 ・「チャイム着席」「呼ばれたら返事をする」は、いずれも95%達成することができた。 ・家庭学習の学年目標を達成できたのは、77%だった。家庭学習のてびきは全家庭に配布したが、活用している児童は、64%にとどまった。 ・96%の児童が「授業が分かりやすい」「授業が楽しい」と答えた。 ・年間貸出数100冊以上の児童が80%以上は達成できた。また、読み聞かせ活動や、読書推進活動が認められ、佐賀県スクール読書チャレンジ運動で優秀校に選ばれた。
	○特別支援教育の充実	・個に応じた指導の充実 ・校内支援体制の充実	・個別の指導計画の見直しと新規作成を行う。 ・特別支援教育やUDに関する職員研修を行う。 ・校内教育支援委員会を定期的に開催する。	A	・個別の指導計画が必要であると判断した児童については、新しく作成した。4月の職員会議で個別の指導計画がある児童の担任に対し、直接手渡しをし説明を行った。特別支援教育の研修は、事例を使って行い、全職員で話し合いをしながら行うことができた。 ・中原特別支援学校田代分校との交流は、昨年度より多く実施することができた。また行事以外でも昼休み等で交流することができた。
	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・ICT機器活用による授業力の向上	・ICT活用研修会を行い、教職員のスキルアップを図る。 ・電子黒板を活用した授業を全クラスで実施し、デジタル教科書利用率を前年度よりアップさせる。	A	・教育センターの講習を受けたり、校内で互いの活用方法などを紹介し合ったりして、操作スキルの向上を図ることができた。 ・デジタル教科書は、ほとんどの教師が活用して授業を進めていた。電子黒板も、全てのクラスで様々な教科において活用できた。特に、国語、社会、算数、理科においては、どのクラスもほとんどの時間で活用し、児童が分かりやすい授業を行うことができた。また、書面カメラも児童のノートや作品を写し出して提示することに活用し、児童の興味・関心を高めたり、意欲付けをしたりするのにたいへん効果的だった。
②人権教育、道徳教育、生徒指導、教育相談の充実を図り、思いやりのある豊かな心を育てる。					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	達成度	成果と課題
教育活動	●心の教育	・道徳、人権・同和教育の充実 ・豊かな体験活動の積極的導入 ・自己有用感をもち、互いを尊重する集団	・道徳の教科化へ向けた職員研修を実施する。 ・年1回以上、全学級で保護者が参加する「ふれあい道徳」の授業を行う。 ・人権・同和教育年間計画の見直しを行う。 ・全学年で栽培活動や交流活動を行う。 ・自分のよさがいえる児童の割合100%をめざす。 ・マナー教室を開催する。	A	・道徳の教科化へ向けた、意識を高めることができた。「ふれあい道徳」は計画通り全クラスで実施し、保護者や地域の方に公開できた。 ・平和集会では、読み聞かせグループの協力を得て、「月光の夏」の読み聞かせを行った。 ・「花いっぱい運動」は、他人に喜んでもらう気持ちを味わわせることができた。 ・「田代っ子ほかほかの木」の取り組みで、良いところへ目を向ける習慣が身に付きはじめている。また、地域の方へカードの記入をお願いしたことで、学校以外での児童の姿を知ることができた。 ・マナー教室を2回実施し、児童一人一人のよさを伝えることができた。
	●いじめの問題への対応	・早期発見への取り組みの充実 ・早期解決と再発防止へ向けた取り組み充実	・いじめ・命を考へる日に全クラスアンケートを行う。 ・アンケート結果の共有といじめ防止対策委員会の機能強化を図る。 ・いじめに関する職員研修を年3回行う。	A	・いじめ覚知後、速やかに管理職への報告があり、チームで聞き取りや事後指導ができた。 ・事例研修会を2回開催し、グループ討議で問題点の検証等ができたのは有意義であった。
	○生徒指導・教育相談の充実	・全職員で見守る、校内体制の構築 ・規律ある生活習慣づくり ・あいさつの励行取り組みの充実 ・清掃活動の充実	・児童支援連絡会を週1回開催する。 ・月の生活目標を提示し、常に意識した指導を行い、目標を守れた児童の割合90%以上をめざす。 ・「元気にあいさつできる」児童の割合が95%以上をめざす。 ・「無言清掃ができる」児童の割合が95%以上をめざす。	B	・子ども支援連絡会を定期的に開催し、情報共有を図った。 ・「元気にあいさつできる」児童の割合は95%達成はできなかった。保護者や地域の方のアンケートでは、校外でのあいさつに課題が残る。 ・マスク着用での無言清掃95%は達成できなかったが、高学年ほど、意識が高く無言清掃ができた。
③安全教育、健康教育の充実を図り、健康増進と体力の向上を図る。					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	達成度	成果と課題
教育活動	○安全・安心な学校づくり	・安全指導の徹底と危険予知・回避能力の育成	・危機管理マニュアルを見直し、危機に際しての動きが迅速にできるようにする。 ・児童の交通事故0件をめざす。 ・ヘルメット着用率90%をめざす。 ・防犯ブザー所持率100%をめざす。	B	・危機管理意識を高める工夫が必要である。 ・交通事故は発生しなかったが、危う事故にあいそうになったり、交通ルールを無視した自転車の乗り方をしている児童がいた。 ・ヘルメット着用率は、91%と目標は達成できたが、さらに100%めざし取り組んでいく必要がある。 ・毎月防犯ブザー点検を行い、所持と不具合の確認をした。所持率は、92%と目標には到達できなかった。
	●健康・体づくり	・健康増進に関する実践意欲の向上 ・運動習慣の改善や定着化	・給食残量を前年度以下をめざす。 ・朝食摂取率95%をめざす。 ・「昼休み外で遊ぶ」児童の割合90%をめざす。 ・「早寝、早起き、朝ご飯」の習慣化85%を目指す。 ・感染症予防のため、手洗い、うがいを習慣化させる。 ・食後の歯磨きを習慣化させる。		・献立によっては残菜率が高いことがあったが、他の学校に比べると平均値以下を保つことができた。 ・朝食の摂取率は、目標の95%を達成できた。 ・ほとんどの学級が週1回以上クラスで外遊びをする日を設定しており、楽しく外遊びをすることができた。 ・佐賀県スポーツチャレンジに取り組み、授業や休み時間に練習したり、記録会等を行ったりすることで、運動に対する意欲を高めることができた。 ・3学期に外遊びを呼びかける放送をしたところ、外で遊ぶ児童が増えた。 ・児童アンケート結果では、外遊びに関する項目が79%と、昨年より8%下がってしまった。 ・うがい、手洗い、歯みがきが習慣化してきた。うがい、手洗い反省表や、保健だより、放送で啓発したことで、実践につなげることが出来た。 ・歯科衛生士による専門的な指導により歯科指導への意識が高まった。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	達成度	成果と課題
学校運営	○学校経営方針	・学校経営ビジョンの周知	・目指す児童像「かしく やさしく たくましく」を保護者、児童の認知度を100%、区長、民生委員の認知度を90%にする。	B	・保護者アンケートの結果は85%、児童アンケートでは98%が周知していると答えている。
	○開かれた学校づくり	・家庭や地域社会との連携 ・情報公開	・地域人材の活用を年間5回をめざす。 ・年度内に人材バンクを整備する。 ・学校ホームページ更新を週に3回以上行う。 ・学校便りの発行を月2回以上行う。		・学校便りやホームページ更新は計画通りに実施でき、情報発信ができた。閲覧数を増やす手立てが必要である。 ・地域の各種会合等で、情報発信ができた。また、地域の方へのアンケートを実施し、ご意見を頂いたことは今後の学校経営に参考になった。 ・家庭科や総合的な学習の時間、教科「日本語」等で地域の人材を活用した授業を行った。さらに多くの活用を模索していきたい。